**国際協働プロジェクト（ISAP）**

**事業計画書**

**（第２回 2011年度版）**

日本国際学生協会

**目次**

* P.3 実行委員長挨拶
* P.4 活動全体の共通目的
* P.6 フィリピンと日本における現状と課題
* P.7 想定される、社会への波及効果
* P.8 第２回国際協働プロジェクト(ISAP)概要

* P.9 2011年度　国外活動の概要
1. 交流活動
2. フィールドワーク活動
3. 協働活動
4. 活動スケジュール（2011年度）

* P.16 2011年度　国内活動の概要(仮)
* P.24 会計
* P.26 組織図と運営者一覧

**御　挨　拶**

拝啓

時下益々御清祥のことと御慶び申し上げます。

我々日本国際学生協会は、1935年の創設以来、学生間の交流による世界平和達成への貢献という理念のもと、一貫して各国学生との国際交流を押し進めてまいりました。毎年、国際学生会議を開催し、相互理解を図ると同時に、会議で得た経験や議決を社会に発信することにより、我々は若者として社会の変革の一端を担ってきたと考えております。 しかし、時代は変化し、会議の枠中での相互理解や社会発信のみでは世界の問題は解決の目途が立たなくなりました。

 社会状況の変化を受け、当協会が掲げる「世界平和達成への貢献」という理念をより大きく達成するためには、我々は今に増して、各国の青年と共に、より主体的に考え行動することが重要であると考えております。この国際協働プロジェクトでは、国境を越えての青年との協働を通じて、実社会の問題解決に取り組みます。

 我々学生の能力では、現実の問題解決へ大きく寄与することは難しいかもしれません。しかし、学生だからこそできる、社会貢献があると確信しております。目的達成による理念の実現へ向け、実行委員一同尽力致しますので、当協会の活動趣向をご理解いただき、ご賛助賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

第2回国際協働プロジェクト

実行委員長 長谷川　由樹

**活動全体の共通目的**

 この国際協働プロジェクトは「世界平和達成への貢献」を理念に掲げ、その為に必要な活動を自分たちの力で作り上げ、現地の方々をはじめとする協力者とともに支え合い、実行することを目的とした国際協力活動を行うものである。

 国際学生協会は1934年に発足した団体である。そして、第2次世界大戦という悲惨な体験によって、我々は世界平和の重要性への認識を得た。「世界平和達成への貢献」という理念に基づいて行われる我々の活動は、既に76年の時を経ている。その中での活動の一環として、我々は56回の国際学生会議を開催している。この会議に参加した学生一人一人の心の中に「世界平和達成への貢献」という理念が確実に根付き、人類の相互理解への寄与は、大いに価値のあるものであると自負している。しかしそれと同時に、我々は学生としての「行動」の重要性を痛感している。56回それぞれの会議の中で感じたことや考えたことを、行動により実社会に還元しなければならないのである。つまり、世界平和達成へのより大きな貢献の為には、議論の枠を越え、平和へ向けたより主体性を伴った行動が必要不可欠なのであると考える。

また国際学生協会は22年前からフィリピンとの国際交流を行っている。その内容はホームステイによる現地の人々との交流と文化理解である。その活動を通じて我々はフィリピンにおいていくつかの課題を把握している。課題は多岐に渡るものであり、学生が取り組むにはあまりにも大きすぎるものばかりである。例えば、ゴミ廃棄場でのごみ拾いを生活の糧にする人々の存在や、フィリピンの熱帯林は1988年までに55％も消失しており、その木材のほとんどが日本に輸出された。そのうちフィリピンで5番目に大きな島であるネグロス島はここ100年の間に熱帯林が大きく減少し、全面積の4％未満となってしまった。

目標『自己の成長に伴う他者の成長への貢献』

「世界平和達成への貢献」という壮大な理念のもと、我々は全力で「学生に何ができるのか」という問いかけに立ち向かい、この問いかけに対して我々は成長を志向する。なぜなら、将来を担う我々学生が自らの手で課題を見つけ解決策を模索し、実行に移していくことで得られる成長が、世界平和達成への大きな推進力になるということをISAの長い歴史の中で実感してきたからである。本プロジェクトを実践していく中で、我々の活動に関わる全ての人が、我々の活動から何らかのきっかけを得てさらに成長し、彼らからもらう刺激を糧に我々もさらに成長する。そうして相互成長を促進し影響の輪を広げていくことによって、世界平和達成への基礎を築いていくのである。我々学生は今すぐ社会的に大きな影響を与えることはできないが、10年後・20年後を見据えると、我々の活動が着実に社会の大きな財産となっていると信ずる。

我々個人の成長がISAPという組織の成長に繋がり、それが他者への成長に繋がる。そうして学生一人一人の小さな力が世界平和達成への大きなうねりとなることを切に願う。そのための第一歩を、我々は踏み出すのである。

**フィリピンと日本における現状と課題**

我々、国際学生協会は22年前からフィリピンとの国際交流を行っている。その内容はホームステイによる現地の人々との交流と文化理解である。その活動を通じて我々はフィリピンにおいていくつかの課題を把握している。課題は多岐に渡るものであり、学生が取り組むにはあまりにも大きすぎるものばかりである。例えば、ゴミ廃棄場でのごみ拾いを生活の糧にする人々の存在や、フィリピン全土での環境破壊なのである。その大きすぎる課題に対し、我々学生は課題を細分化しフィリピンの人々と共に、長期的に人々の意識に働きかけることにより、課題を解消していく。

国外活動の対象であるイロイロ市はフィリピン中部パナイ島に位置するイロイロ州の州都である。40万人の人口を有するイロイロ市は西ビサヤ地方の中でも最も古い歴史をもち、商工業の中心地である。それに加え、20以上の大学がある教育都市としても知られている。しかしながら人口増加や農村からの人口流入によるスラム地域の拡大や、26ヘクタールに広がるスモーキーマウンテンで生計を立てる約1000人もの住民たちなど、都市化が進む一方で貧困問題や環境問題も深刻化している。そういった課題の中で2010年度ISAP01が取り組む課題は「環境」「衛生」「食」に対する子どもたちの意識改善であった。ISAP02は、子どもたちへ基礎教育を補完する形で授業を行い、子どもたちの成長へ貢献することによりフィリピンの課題の解消へ取り組む。

国内で取り組む課題は、日本人学生の国際理解の促進と国際協力の促進である。特にプロジェクトの対象である西宮市には外国人居住者が多く、その重要性が高まりつつある。その中で“経験”は国際理解を深める上で有効な手段だと考える。机上の学習だけに止まらず、フィリピンの子どもたちと日本の学生が交流することでインタラクティブな国際理解をめざしたい。

**想定される、社会への波及効果**

1.国内活動

　 プロジェクト対象者（日本の小中高校生）の国際的関心が高まり、知識や視野が広がる。

国際交流、国際協力活動とは何かを経験を通して学ぶ。

今まで行ってきた活動が実際にどう活かされているのかを知る。

2.国外活動

　プロジェクト対象地域の教育現場において国際理解、環境問題への意識が高まる。

　　プロジェクト対象者（フィリピン　ナバイス小学校生徒）の国際的関心が向上する。

　　プロジェクト対象地域の教育環境の現状と課題を把握し、長期的な改善策に取り組む。

3.プロジェクト参加者の自己成長

　　日本国際学生協会、および本プロジェクトの社会的役割を見出し、地域社会・国際

社会に貢献する。

　　そのニーズを捉え、それを満たす先見力と実行力を身につける。

**第２回国際協働プロジェクト（ISAP）概要**

構成　 国内活動：小中学校にて国際協力やフィリピンに関する授業

 　 国外活動：「交流活動」・「フィールドワーク活動」・「協働活動」

実行日 国内活動：2011年2月〜11月(仮)

 国外活動：2011年9月6日〜18日

場所 国内活動：百合学院高等学校 等

国外活動：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市、マニラ市

ねらい 国内活動：日本人学生（プロジェクト対象者）の国際交流経験の提供

　　　　　国際的知識の養成と国際協力活動の促進

国外活動：相互理解の促進と友好関係の構築

　　　　　問題への改善提案のための現状把握

　　　　　フィリピン人との協働による問題改善

協力団体 LOOB INC

 兵庫県西宮市

参加人数 約25人

**2011年度 国外活動の概要**

期間 2011年9月6日〜18日（仮）

場所 フィリピン共和国パナイ島南部のイロイロ州イロイロ市、

　　　　　　　　フィリピン共和国ルソン島中西部マニラ市

対象 ナバイス村・カラフナンに住む人々

目的　　　　子どものための継続性のある協働活動

構　　成　　　「交流活動」・「フィールドワーク活動」・「協働活動」の3つの活動

1. 交流活動

フィリピンの人々との信頼関係を築くため

1. フィールドワーク活動

フィリピンの現状を学び、今後の活動へ活かすため

1. 協働活動

フィリピン人との協働による子どもたちの成長への貢献するため

1. 交流活動

**目的**国際交流活動を通じて相互理解の促進・信頼関係の構築を図る。協力活動を行うにあたって、基礎となるのは交流を通じた信頼関係である。国際協力活動のためにはお互いの信頼関係を築くことは欠かせない。多くの協力活動になりがちな「上からの協力」にならないようにするためにも、また今後ともISAPが継続した活動を行うことができるようにするためにも、交流活動を通じて日本人とフィリピン人との信頼関係を築くことを目指す。

**活動概要**　交流活動の基盤となるのは、日本人とフィリピン人との協働作業、そしてお互いがその時間を楽しむことである。その活動を通じて信頼関係の構築を目指す。文化面を学ぶ「文化交流」の一面も含んでおり、お互いの文化を知ることでより一層の相互理解の促進につながると考える。

**活動内容**

* **文化交流活動（Welcome Party）**

場所　ナバイス村 LOOBベース

岡山県の伝統舞踊「うらじゃ」の披露

目的　うらじゃ音頭を一緒に踊ることで、日本人・フィリピン人の一体感を育む。

そして、フィリピンの人たちに日本の文化に触れてもらう。

* **日本・フィリピンのスポーツ体験活動**

場所　LOOBベース

対象　ナバイス小学校の生徒

目的　日本とフィリピンのスポーツを両方体験することで、お互いの文化を学び、理解す

　　る。

　日本：相撲・バレー・凧揚げなど

フィリピン：シパー(現地の方々・子どもたちから教えていただく)

* **協働創作活動（Friendship Night Party）**

場所　ナバイス村

目的　日本料理とフィリピン料理、ダンスや合唱などを出しあい、文化交流を図り、親睦を深める。

2. フィールドワーク活動

**目的** この活動では、“知る、学ぶ”ということを第一目的とする。我々は現地の正確な状況を完璧には把握していない。実際に自分の足で現地に足を運び、そこで実際の状況を自分達の目で見て、肌で感じることの重要性を認識している。その中で、日本国内では知り得なかった情報を得て、学生の本分である学びも得ようと考えている。そして、得たものを今後の活動に活かす。

**活動概要** この活動ではフィリピンの現状を把握する。現状を探ることにより、本プロジェクトにおける今後の活動に繋げる情報収集をするとともに、現地のニーズに合った活動の幅を広げようと考えている。現地における活動として、小学校教師へのインタビューやスモーキーマウンテン訪問、フェアトレード製品作業施設訪問を予定している。

**活動内容**

* **授業見学**

場所：ナバイス小学校

目的：ナバイス小学校の施設環境や教育活動を自分の目で確かめるとともに、フィリピンの教育環境について問題点、課題を発見する。

* **スモーキーマウンテン訪問**

場所：カラフナンのごみ山

対象：カラフナンのごみ山に住む人々

目的：普段、我々の身の回りにありあまっている段ボールなどのごみはフィリピンではお金になる。つまり、ごみ山で暮らす人にとって、我々が捨てているごみが生きていく上で必要不可欠な生活の資源になっている。その一方でごみ山は国レベルの社会問題になっている。しかし、そこに住んでいる人々を無視してごみ山を排除することはできない。そのような問題を抱えたごみ山で生活をしている人々のバックグラウンドを理解したうえで、学生だからこそできる柔軟な質問をすることにより、現地の人々の考えや意見を聞く。ここでは、現状を知って理解することを第一とする。

* フェアトレード製品作業施設訪問

場所：UCLA（Usage Carajunan Livelihood Association）

対象：UCLAの生産者

目的：フィリピンで行われている国際協力の一つにフェアトレードがある。簡単に言うと、先進国と発展途上国との間で行われる正当な取引である。このフェアトレードが行われないことにより、生計が立てることができない人達もいる。

この活動では実際にフェアトレードを行っている生産者に生産過程においての経験や考えを聞くと共に、学生側からも質問や提案をする。そしてそこで知って学んだことを我々の周りに発信することにより、国際理解を図る。

3. 協働活動

**目的** フィリピン人との協働による子どもたちの成長への貢献

**活動概要** 環境、衛生、英語、食育、といった四つの視点から現地の子どもたちに必要な教育活動をフィリピン人ボランティアと共に行う。また、日本とフィリピン両国の子どもたちに互いの身近なことを描いた思い出に残るものを交換し、お互いの生活を教えあい、交流を行うことで両国の子ども達に国際理解と国際交流の経験を与え、両国の子どもたちの成長を図る。

**活動内容**

* **食育活動**

目的：「食」に対する関心を深め、栄養に関する正しい知識を身につける

活動場所：マンドリアオ小学校

活動対象：マンドリアオ小学校の生徒

フィリピンの子どもたちの多くは、身体に悪いスナックを、身体に悪いと知らず日々過剰に食べているという現状がある。故に、専門用語は用いず、絵を用いて食品やその働きなどを紹介し食品群の正しい理解を深めてもらう。そして、クイズをすることで子供達の「食」に対する関心を深めてもらう。

* **歯磨き活動**

目的：歯を磨くことの大切さを伝える

活動場所：マンドリアオ小学校

活動対象：マンドリアオ小学校の生徒

マンドリアオ地域での貧困層の子どもたちは、歯磨きを行う習慣が無く、歯が次第に溶けてなくなってしまっているといった現状がある。故に、我々はマンドリアにあるマンドリアオ小学校の子どもたちに、紙芝居を用いて歯を磨くことの大切さを伝える活動を行う。そして、歯ブラシを寄付し、実際に歯を楽しく磨くことにより、子どもたちの歯の保護意識を喚起したいと考える。

* **英語教育活動**

目的：子どもたちに英語を楽しく使う機会の提供

活動場所：カラフナン（ごみ山周辺の地域）

活動対象：カラフナンの子どもたち

フィリピンにおいて、英語の習得は安定した職に就くための必須項目である。英語教育活動は、英語カルタを通じて文化交流だけでなく簡単な英語を学習し子どもたちに英語を楽しく使う機会を提供する。

* **調理実習**

目的： 子ども達に食事の栄養素についての知識の提供

活動場所：LOOBベース

活動対象：ナバイス村の子どもたち

* **キャンドル＆フォトフレーム作り**

目的：日本の子どもたちとフィリピンの子どもたちをつなぐため、彼らに同じものを作ってもらい交換する。また、停電の多いフィリピンでキャンドルを活用してもらう。

活動場所：各ホームステイ先

活動対象：ナバイス村の人々

* **音楽交流**

目的：音楽の授業がないフィリピンでは楽器に触れる機会が少ない。そこで鍵盤ハーモニカを当協会会員の協力を得て集め、その鍵盤ハーモニカを使って音楽に触れてもらう。また、音楽を通してフィリピンの子どもたちと交流を行う。

活動場所：LOOBベース

活動対象：ナバイス村の子どもたち

* **水道管作り**

目的：ナバイスの小学校の中に水を溜めるところはあるが水道管が通ってない。そこで水道管を各教室に通す。

活動場所：ナバイスの小学校

活動対象：小学校職員、その学校の子どもたち

* **国際関係機構への訪問**

目的：NGOなどの援助で学校に通っていた子どもたちが、どのように自立し、独立していくかをソーシャル・エンタープライスの視点から学ばせていただく。

活動場所：ユニカセ

活動対象：ユニカセで働くスタッフ

4. 仮活動スケジュール（2011年度）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| DATE | ACTIVITY | LOCATION |
| 9月6日（火） | マニラ到着 |  |
| 9月7日（水） | マニラ探索ユニカセ訪問 |  |
| 9月8日（木） | 学校訪問 |  |
| 9月9日（金） | 調理実習 |  |
| 9月10日（土） | スモーキーマウンテン訪問Weekend Kids Activity(カルタで英語教育) |  |
| 9月11日（日） | フィールドワーク |  |
| 9月12日（月） | 衛生教育，ワーク（学校づくり） |  |
| 9月13日（火） | 衛生教育，ワーク（学校づくり） |  |
| 9月14日（水） | 衛生教育，ワーク（水道管づくり） |  |
| 9月15日（木） | 衛生教育，ワーク（水道管づくり） |  |
| 9月16日（金） | 音楽教育 |  |
| 9月17日（土） | ワーク（小学校づくり） |  |
| 9月18日（日） | 関西国際空港 到着 |  |

2011年度　国内活動概要（仮）

授業概要

文責　原田道乃

目的

　フィリピの人々の生活や現状を生徒の方々に知ってもらうことによって、我々日本人がどれほど豊かな生活をしているのか、また、世界にはフィリピンのように貧しい生活をしている人がたくさんいる国もあるということを伝えたい。

　また、そういった生活を強いられている人々に我々にもできることがあるということを実感してもらいたい。

授業内容

　対象年齢：3～4年生

　場所：教室

　クラス数：3～4クラス

　時期：10月上旬～11月下旬

　所要時間：講義20～30分、活動40～60分

　　　　　　計60～90分

　　※学校様と要相談

講義形式：パワーポイント

フィリピンについて

1. フィリピンの基礎知識

Ex.位置、人工、特産品、言語

Ex.貧困、スモーキーマウンテンetc.

 授業後に工作の内容によって、衛生や停電の問題を紹介

ISAPの活動紹介

第一回ISAPでどのような活動を行ったか紹介

企画活動

・工作活動（キャンドル作り、フォトフレーム作り）

授業について

文責　原田道乃

目的

フィリピンの人々の生活や現状を生徒に知ってもらうことによって、我々日本人がどれだけ豊かな生活をしているのか。また、世界にはフィリピンのように貧しい生活をしている人がたくさんいる国もあるということを伝えたい。

更に、そういった生活を強いられている人々に我々にもできることがあるということを実感してもらいたい。

授業内容

対象年齢：3～4年生

場所：教室

クラス数：3クラス

時期：6月中旬～7月中旬

所要時間：講義20分、工作40分（料理の場合は60分程度）、計60分程度

※学校様と要相談

講義形式：パワーポイント

当日の流れ

①フィリピンについて

　１、フィリピンの基礎知識

　　　Ex. 位置、人口、特産品、言語

　２、フィリピンの課題・解決したいこと問題点

　　　Ex. 貧困、スモーキーマウンテンetc.

　　　　　授業後に行う工作の内容によって、衛生や停電の問題を紹介

 ②ISAPの活動紹介

　第一回ISAPでどのような活動を行ったか紹介

③工作活動

　＜候補＞

　　・キャンドル作り

　　・フォトフレーム作り

　　・英語カルタ作り

　　・フィリピン料理作り

キャンドル作り

提案者　針崎 万麗夜

文責　南井 愛加



目的

フィリピンでは電気供給システムが整っていないなどの理由で停電が多い。そこで、キャンドルを作ってフィリピンの人々にプレゼントしたいと考えた。

また、この活動を通して日本の生徒のみなさんに楽しみながら国際協働・国際協力について知ってもらい、かつ身近に感じてもらいたい。この機会が世界に視野を広げるきっかけになればと思う。実際に役立つものを作ることで、自分にも世界の人々のためにできることがある、と実感してもらいたい。

内容

キャンドルを作成する。生徒一人につき2個作り、1個は自分用に、もう1個をフィリピンの子どもたちに贈る。

対象/クラス数/所要時間

小学校4～6学年/1～2クラス/90分

 ※学校様と要相談

当日の流れ

1.実際のフィリピンの停電事情、キャンドル作成を行う目的、キャンドルの作り方をISAP側が子どもたちに説明

2.理科室で(※学校様と要相談)キャンドルの作成

3.作成後、ISAP側が子どもたちにお礼を述べ、キャンドルを贈ることを約束する

＜廃食油キャンドルの作り方＞

**○準備するもの**

廃食油

ザルなどでこしておく。色をつける場合は賞味期限切れの油を推奨。

凝固剤

固めるテンプルなど　分量の２倍量が必要です。

（目安）だいたい100ｍｌあたり６ｇ。メーカーによって異なる。

キャンドルの芯

ススが出にくい麻ヒモ推奨。タコ糸でも可。

空きびん

口径７cm以下のもの推奨（キャンドルホルダーに入れるため）。

口径７cm以上のものは、火がビンの外に出ないよう

入れる油の量を半分くらいにしてください。

割り箸

おたま

コンロ

キャンドルに色をつける場合

クレヨン（削っておく）

アロマオイル（油性）

**○作り方**

1. 油をなべで熱する。
2. 火をとめた後、好きな色のクレヨン（削っておく）を入れ、油に色を付ける。クレヨンが、完全に溶けきるまでよく混ぜる。

③凝固剤を入れ完全に溶けきるまで、よくかき混ぜる。

　アロマオイルを適量入れてかき混ぜる。

（注意：温度が高すぎると香りが蒸発し低すぎると油が固まってしまう）

④キャンドルの芯を割り箸で挟み、空きびんの中央にセットする。ビンの底にヒモがつくようにする。

⑤なべからおたまで油をすくい注ぎ込む。

⑥固まるまで、待つ。固まったら芯を１～1.5CM残して切り完成。



フォトフレーム案

提案者、文責：山内　菜摘

目的

フィリピンと日本の子どもたちをつなげるきっかけになる。

日本の子どもたちがフィリピンへの興味を持つことができる。

フォトフレームなら子どもたちでも簡単に楽しく作れる。

視覚からのインパクトにより一層、日本とフィリピンの子どもたちが互いに親しみを持てる。

作成後に飾れるため、子どもたちが講義のことを忘れる可能性が減少し、その時の思い出だけでなく、将来フィリピンや世界のことを考えてもらうきっかけとなる。

活動内容

フレームを２つ作り、１つフィリピンの子どもたちにプレゼントします(注1)。

プレゼントする方のフレームに、小さく、作った子の写真を入れます。

裏には作成者のプロフィール(名前、家族構成、好きなもの、嫌いなもの、メッセージ、など自由に)を英語で書いた紙を貼る(注2)。

(注１)我々がフィリピンの小学校へ訪ねた時にプレゼントする予定です。

この案が通れば、受けっとったフィリピンの子にもメッセージを書いてもらい、同様に日本の子にもプレゼントが渡されるように、フィリピン側と交渉します。

(注2)メッセージは英語で書いて頂きます。知らない単語は、我々がその都度教えます。

英語の練習にもなります。

＜材料(フレーム1枚)＞（注３）

・牛乳パック　1～2個

・装飾材料（紙、テープ等）　好み

（注３）我々もできるだけの材料は揃えますが、数が膨大になると予想されるので、できるだけ子どもたちの方で用意して頂きたいです。

＜作り方＞

① 牛乳パックを2枚同じ大きさの長方形型に切る(緑)

② 1枚に×線を引き（赤）、カッターで切る

③ △になった部分を枠にしていく(折り曲げる)

④ 枠を飾る

⑤ 2つの牛乳パックを貼りつけて、完成

（フレームの大きさ・飾りの方法も全て自由にです。）　(黄部分に写真を入れます。)

対象/クラス/所要時間/場所

小学生/3～4クラス/60分/教室

当日の流れ

これの作り方を15分程度講義してから、30分の工作に

入っていただく。

英語カルタ

提案者　山内 菜摘

文責　西村 まどか

目的

義務教育の中で中学校では英語科はカリキュラムに必須の科目であった。これに加え、小学校でもまた平成20年3月小学校学習指導要領の改訂を告示し、新学習指導要領において、5・6年で週1コマ「外国語活動」を実施することとなった。これに伴い遊びを通して英語や世界の文化を学ぶと共に、コミュニケーション能力の基盤を養うため。

活動内容

1.グループに分かれ、各グループ１つの国の文化に関するカルタを作る。

　（ただし日本とフィリピンの文化は必ず入れて頂きますが、その他は自由です。また時間の関係上、カードは我々が用意しておきますので、カードの内容作成をしていただく。）

2.絵は自由ですが、文字は英語で書いていただきます。

(単語がわからない場合は、我々がサポートします。一例として、りんご→apple　ここで見本を我々が表示する。)

3.完成後、グループ同士で交換して自分たちで作ったカルタで英語や文化を学びながら遊ぶ。(30人学級としてグループは5人1組程度。1セット29種。6セット作成予定。)

作品は持って帰るのもよし、不可能ならばフィリピンの学校にプレゼントする。

我々が９月にフィリピンで活動させて頂く小学校への寄付を考えている。

対象

　小学校高学年

所要時間

フィリピンを主とし、各国の簡単な文化紹介……30分以内

　カルタの作り方……10分以内

　カルタの作成時間……40分

　作成したカルタで遊ぶ時間15分～20分程度

計　約100分

●活動報告

文責　原田道乃

目的

工作してもらったものを現地に実際に届けた結果をお伝えたし、受け取った現地の人の様子、どのように役に立ったのかを報告させていただく。実際に届けられた結果を見ることで、日本にいる自分たちが世界とつながっていること、また、世界を生徒のみなさんに身近に感じてもらいたい。

内容

①工作を届けた結果

　　　写真（可能なら映像）で受け取った人々の表情や、どのように使われているかをお伝えする。また、交換するような企画であれば現地から預かってきたものをお渡しする。

　　②第二回ISAPが今年見てきたこと

　　　今年の活動報告

　　　※形式・対象・やり方などは“授業概要”のページに記載しているものと同様に行う。

****

**会計**

**支出内訳**

**(**

**案**

**)**

1.

活動運営費

（単位：円）

国外活動運営

費

滞在費

現地交通費、宿泊費、食費

25

人分

1,25

0,000

交通費

往復飛行機代

25

人分

750,000

交流活動費

10,000

授業活動費

15

,000

小計

**2,025,000**

国内活動運営

費

イベント費

出店費、材料費

15,000

講演費

会場費

5,000

交通費

遠方参加者への援助費

130,000

参加者勉強会費

会議室使用費

5,000

雑費

文具費、写真費等

5,000

小計

**1**

**60**

**,000**

2.

実行委員会運営費

交通費

遠方者への援助費

50,000

会議費

会議室使用費

40,000

雑費

プロジェクター費、名刺費等

10,000

その他チーフ特別活動費

交通費

9,000

円×

5

回

(

交通費等

)

45,000

小計

**14**

**5,000**

**組織図と運営者一覧**

＜組織図＞



＜運営者一覧＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **役職** | **名前** | **大学** | **備考** |
| 実行委員長 | 長谷川 由樹 | 関西学院大学3年 | 元ISAP01総務部　部員 |
| 総務部　部長 | 西村　まどか | 同志社女子大学3年 | 　 |
| 　　　　部員 | 佐武　里砂 | 同志社女子大学2年 | 　 |
| 企画部　部長 | 原田 道乃 | 甲南大学2年 | 元ISAP01スタッフ |
| 　　　　部員 | 田頭　太一 | 関西学院大学2年 | 　 |
| 　　　　部員 | 坂下　佳穂 | 松陰女子学院大学2年 | 　 |
| 　　　　部員 | 横治　航太朗 | 関西学院大学3年 | 元ISAP01 企画部　部員 |
| 渉外部 部長 | 南井 愛加 | 同志社大学2年 | 元ISAP01スタッフ |
| 　　　　部員 | 吉元　聡子 | 北九州市立大学2年 | 　 |
| 広報部　部長 | 玉井　毅 | 関西学院大学2年 | 　 |
| 　　　　部員 | 郡山　めぐみ | 関西学院大学2年 | 　 |
| 　　　　部員 | 針崎　万麗夜 | 北九州市立大学2年 | 　 |
| 財務部　部長 | 山内　菜摘 | 関西学院大学2年 | 　 |

**第2回国際協働プロジェクト（ISAP） 事業計画書**

|  |
| --- |
| 発行責任者：長谷川　由樹 （第2回国際協働プロジェクト 実行委員長）編集責任者：玉井　毅 （第2回国際協働プロジェクト 広報部 部長）発行元：日本国際学生協会 国際協働プロジェクト |